



多聞天像(個人蔵)



厨子

## 嶋村俊表の多聞天像

嶋村俊表は江戸時代末期に活躍した彫物大工で、江戸彫りと呼ばれる作品を各地に残しています。彫物大工の嶋村家は江戸の浅草に住み、京橋の後藤家、下谷の石川家とともに江戸彫物大工御三家のひとつに数えられています。彫物大工の系図である「彫工世系図」によると、嶋村家の初代は俊元を名乗り、万治・寛文年間(1658~1673)頃に活躍した人物とされています。嶋村俊表は「彫工世系図」には出てこない名前ですが、嘉永2年(1849)頃完成をみた川越氷川神社本殿に、「東都神田川住 寫邑俊元八代孫 寫邑俊表」の銘を残しています。俊表が嶋村俊元の系譜に連なっていることは間違いありません。

上掲の多聞天像は、岩座の後ろに「寫邑俊表謹彫刻之」の銘が彫られており、俊表の作品です。多聞天は持国天・増長天・広目天とともに四天王と呼ばれ、仏教では須弥山しゅみせんの四方を守る神とされています。また多聞天は、独尊では毘沙門天とも呼ばれ、福德の神として七福神のひとつに数えられています。本像は右手の一部が破損していますが矛ほこを持っています。しかし、

左手首はすべて破損しているため持物は不明です。

この多聞天像を収めている厨子の裏側には、次のような墨書があります。

「嘉永七甲寅年九月三日/祭主内藤忠右衛門/  
多聞天王尊像/開眼仏地院五十六世章信」

祭主にある内藤忠右衛門は喜多町の米穀商で、屋号を「万屋」といいました。伝承によると、俊表が氷川神社本殿造営のため、同家に長逗留したことのお礼に贈られたものといえます。

川越に残る嶋村俊表の作品は他に、木野目の仁寿稲荷神社本殿(嘉永5年)、喜多町金毘羅堂十五童子像(嘉永5年)、連雀町熊野神社の御神酒おみきわく棹(安政3年1856)などがあります。また、嘉永6年造営と考えられる川越城内東照宮にも俊表が携わっており、その建物は移築されて前橋東照宮として現存しています。他市に残されている作品等を考えると、俊表の活躍時期は嘉永・安政年間(1848~1860)頃とすることができます。俊表は上総国勝浦(現千葉県勝浦市)で、文久3年(1863)11月15日、55歳で亡くなりました。(覚翁寺過去帳)

# 新たな博物館学習の展開

## —「歴史と文化を生かしたまち 川越」について学ぶ子どもたち—



### —はじめに—

博物館では開館以来、学校教育との連携に力を注いできました。昨年度、博物館で学習した小中学生は3万人を超え、学校数は300校を超えました。開館日数から考えると、毎日1校以上が博物館を訪れ、学習していることとなります。

学校が博物館学習をする場合、それぞれの校種や学年の学習内容に応じて実施しています。学習内容に応じた展示をしたり、解説を行ったりすることにより、多くの学校から支持を受け、利用されています。

このような状況の中、義務教育での学習内容の基準となる学習指導要領が改訂され、小学校では平成23年度、中学校では平成24年度から、新しい学習内容による授業が実施されるようになりました。

小学校の新しい学習指導要領では、第3・4学年の社会科において、「川越」を新たな教材として取り上げる学校が見られるようになりました。これにより、博物館では従来にない「新たな博物館学習」を展開することができるのではないかと考え、平成22年度から準備を始め、平成23年度から対応するようになりました。そこで今回、この3年間の活動を振り返り、新たな博物館学習の状況や、学習支援の様子等について紹介してみたいと思います。

### 1 「川越」が新たな教材となる

#### (1) 小学校第3・4学年の社会科の学習内容

小学校第3・4学年では、以前より2年間にわたり「地域」を中心に学習してきました。今回の改訂でもその点についての変更はありませんでした。しかし、学習で取り上げる事例については、細かな改訂がありました。

#### (2) 「川越」への注目

細かな改訂点の1つに、都道府県内の「特色ある地域の様子」を学習する場合に取り上げる事例地の条件があります。新たな条件としては、次の3つが提示されました。

- ①歴史ある建造物や街並み、祭りなどの地域の伝統や文化を受け継ぎ保護・活用しながら、地域の人

々が互いに協力して、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域

- ②豊かな自然を守りながら、地域の人々が互いに協力して、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域

- ③伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域

実際に学習する場合、この条件の中から各市町村が地域の特色に応じて、事例地を選択して取り上げるようになっていきます。

埼玉県でこの3条件に合う地域を考えると、条件①において、「歴史ある建造物・街並み」「伝統」「保護活用」「まちづくり」「観光産業の発展」など、全てのキーワードが「川越」と適応しています。また、川越は交通の便がよく、電車やバスを利用した校外学習を行うには、とても条件のよい地域でもあります。

そこで博物館では、多くの市町村が学習の事例地、つまり、教材として「川越」を選択し、多くの学校が校外学習として川越を訪れるであろうと考えました。

#### (3) 「川越」の教材化

平成22年度に、県内各市町村教育委員会を取材し川越の教材化を進めている市町村を調査しました。結果、川越市を除く62市町村の内、52の市町村が教材化を計画していました。

これにより、多くの学校で川越の歴史や町並みの様子等について学ぶことが確実となり、校外学習の目的地として「川越」を新たに選択する学校が増加する可能性も大きくなりました。そこで博物館では、新たな目的で川越を訪れ、学習する児童や教員を支援するための準備を本格的に始めました。

### 2 博物館学習を推進する準備を始める

#### (1) 館職員の共通理解

博物館での学習支援を行うためには、関係職員の共通理解が不可欠と考え、はじめに次の点について、職員の共通理解を進めていきました。

- ①学校の状況
- ②校外学習の目的地として採用される可能性
- ③博物館の役割

## (2) 学校への広報活動

川越の教材化は新しい試みであるため、過去の実践例から学ぶことが難しく、指導する教員も他市町村の教員であるため、川越についての知識が浅く、校外学習で川越を訪れたとしても、効果的な活動を展開することは困難なことが想定できました。

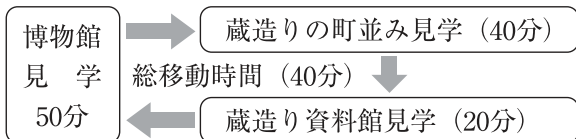
そこで、次のような内容を紹介する資料を作成し、博物館ホームページや、各教育委員会を通じて、学校への広報活動を始めました。

- ①校外学習として川越を訪れることによる学習効果
- ②川越市立博物館で提供できる学習支援
- ③効果的なモデルコース（見学ルート）
- ④見学先での主な活動例
- ⑤川越市立博物館の利用手続きの方法

### ◆効果的な「モデルコース」の提案◆

博物館学習の内容とは別に、学習内容に合わせた校外学習全体のモデルコース(博物館発着点)を企画し、提案しました。

〈所要時間：2時間30分〉



〈時間に余裕がある学校へ紹介する関係施設〉

- 本丸御殿 ○川越まつり会館 ○菓子屋横丁

## (3) 博物館学習に関する資料の作成

学校への広報活動と平行して、効果的、効率的な博物館学習を展開するため、次のような様々な資料を作成しました。

- ①学習カード
  - ・児童へ配布するワークシート
- ②学習カード「解説編」
  - ・引率教員に配布する解説書
- ③「蔵造り資料館・本丸御殿」学習カード
  - ・見学を支援する、クイズ形式のワークシート
- ④「蔵造り資料館・本丸御殿」学校利用マニュアル
  - ・引率教員を支援する両施設の解説書

## (4) 博物館学習を支援する解説内容の検討

全ての準備と平行して、学習する内容に応じた展示資料を効果的に紹介するための解説内容を検討しました。各学校の活動時間や、児童の理解力、収容できる人数・スペース等、様々な条件を考慮し、次のような展示資料解説を設定しました。

### ①「城下町模型」を利用した解説

- ・川越がかつて城下町であったこと
- ・川越には昔から残る様々な文化財が現存し、保護に努めていること
- ・蔵造りの町並みは、江戸時代にはまだ形成されていないこと



城下町模型

### ②「川越大火・蔵造り町並み模型」を利用した解説

- ・「川越大火」が蔵造りの町並み形成されるきっかけとなったこと
- ・蔵造りの町並みにある商家の多くが、短冊状の土地になっていること
- ・建物の並び方が、道路から順に「店」「住居」「土蔵」になっている商家が多いこと
- ・建物の北側には窓が少ないこと



蔵造り町並み模型



蔵造り模型

### ③「蔵造り模型」を利用した解説

- ・蔵造りが土蔵造りであること
  - ・蔵造りの大きさを実感すること
  - ・土壁の構造や建築日数、費用、建築に関わる職人等、蔵造りに関する様々な情報を得ること
- 解説時間は、滞在時間や児童の集中力等を考慮し、各解説を15分ずつ、合計45分間に設定しました。解説方法では、児童の関心や意欲を高めるため、一方的な説明にならないよう、資料を調べたり、質問に答えたりする活動を取り入れました。また、解説する職員が同質な支援を提供できるようにするため、研修会を開き、職員間の共通理解に努めました。



### 3 学校の受け入れが始まる

#### (1) 新たな博物館学習による「利用状況」

平成23年度から、小学校第3・4学年による新たな博物館学習の受け入れが始まりました。そして、この2年間の利用状況は次のようになりました。

項目	平成23年度	平成24年度	比較
市町村数	19市町村	26市町村	+37%
学校数	40校	79校	+98%
利用者数	3,663人	6,590人	+80%

初年度より多くの学校が利用し、2年目はさらに利用数が増加しました。また、8割の学校が2年続けて利用しており、再利用率の高さもわかります。

#### (2) 博物館学習の様子

ここで、博物館学習での児童の様子や、職員の対応について紹介します。

##### ■オリエンテーション

活動前に、学習の目的や利用上の注意点を確認し、児童の関心や意欲を高めるようにしています。



##### ■「城下町模型」を用いた学習

川越を象徴する文化財の1つである「時の鐘」を見つける活動をしています。俯瞰するだけでなく、姿勢を低くし視点を下げて見ることにより、当時の様子について少しでもわかりやすくなるよう工夫した説明をしています。



##### ■「蔵造り町並み模型」を用いた学習

「南側から見るとたくさん見え、北側から見るとほとんど見えないもの…。それは何でしょう？」この質問の答えを見つけている児童の様子です。北側に窓が少ないという町並みの特徴について、単に説明するのではなく、実際に見つける活動を通して意欲を高めたり、理解を深めたりしています。



##### ■実物大の「蔵造り模型」を用いた学習

実物大の模型を見ることにより、蔵造りの大きさや重量感を体感している様子です。

ここでは、蔵造りの特徴を説明するだけでなく、この後予定している「町並みのフィールドワーク」で見学するポイントなどについても紹介しています。



#### (3) 利用した学校からのアンケート結果

実施後、学校に依頼し回答のあった「アンケート」を考察すると、次のような成果(○)と課題(●)が明らかになりました。

- 学習に応じた解説内容や、児童の実態に合わせたわかりやすい解説への高い評価
- 児童、教員に配布した資料の有効性
- 今後の実施についての決定或いは前向きな検討
- 学習効果を高める「新たな学習カード」の要望
- 安全な活動や昼食場所等の環境に対する不安

### 4 おわりに —今後の展開について考える—

#### (1) 事前打合せの効率化

博物館学習を実施する場合、各校個別に事前打合せを行っています。しかし、今後利用校数がさらに増加すると、個別の対応は厳しくなります。そこで、一斉説明会等を実施し、効率よく、確実な打合せができるように準備していく必要があると考えています。

#### (2) 課題解決に向けた取り組み

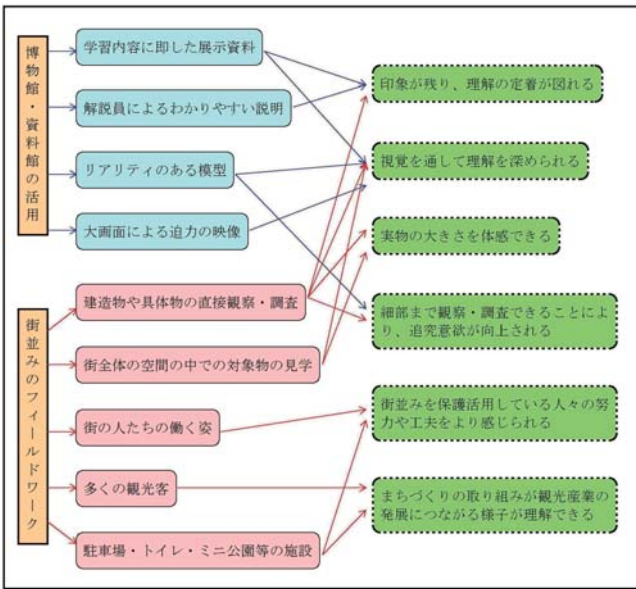
博物館だけでは解決できない課題もあり、今後は関係機関との連携も模索し、よりよい学習を提供できるように創意工夫していきたいと考えています。

(教育普及担当 武蔵昌行)

《資料編》博物館が提供している各種資料を紹介します。

1 ホームページで紹介している「校外学習の案内」

(1) 「校外学習で川越を訪れることの学習効果」の紹介



(2) 「博物館で提供できる学習支援」の紹介

- 1 解説を付けた博物館見学**
  - 博物館の展示資料を使って、まちなみの歴史的背景や蔵造りの特徴などについて、**解説を付けて**わかりやすい説明をします。
  - 校外学習のスタートとして博物館を活用することにより、大きな学習効果が得られます。
- 2 校外学習用カードの配布**
  - 博物館で作成した「校外学習向け学習カード」を**児童数分**配布します。
  - P3のモデルコースでの見学に対応した内容となっています。
- 3 蔵造り資料館解説資料の配布**
  - 資料館見学の際、先生方が児童へ解説することのできる「**教員向け資料**」を配布します。
- 4 教材研究のための相談窓口**
  - 資料収集や取材先の紹介等、**先生方が教材研究をするための相談**を受け付けています。

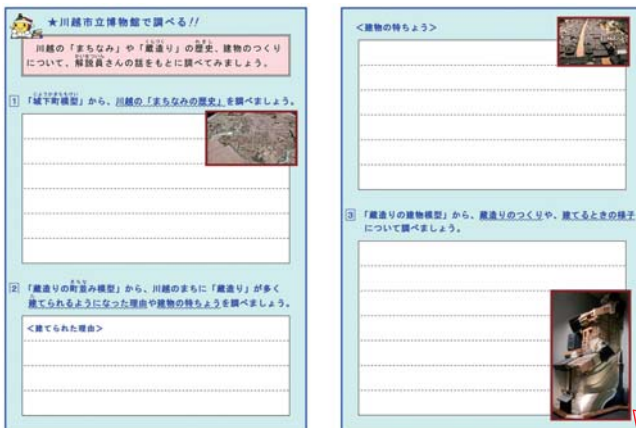
↑ 「博物館」が教育施設として行う様々な支援について具体的に紹介しています。

← 校外学習として川越を訪問することの意味や、教育的効果について具体的に紹介しています。

2 児童に配布する学習カード

■博物館で学習したことを記録するノート

解説するコーナーごとに記入欄が分かれています。



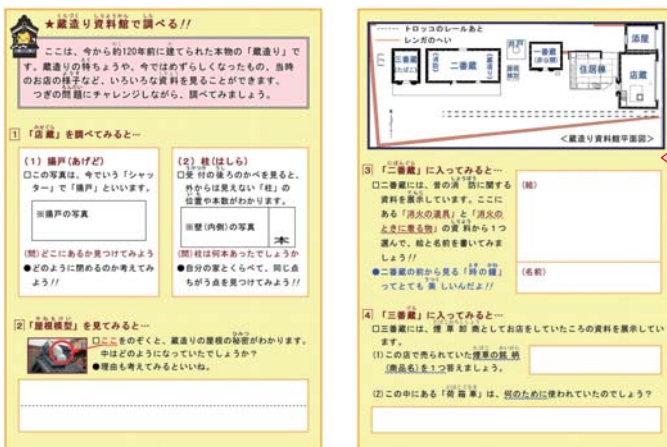
■蔵造りの町並みをフィールドワークするカード

景観を整えるために工夫されている事例について、探検しながら見つけるカードです。



■蔵造り資料館の見どころを案内するワークシート

クイズを通して楽しく学習できるワークシートです。



■フィールドワークの解答や補説を載せた教員向け資料



3種類の学習ができるように構成されています。希望により、児童数分配布しています。



# 加藤一胄(初代)の極小豆兜



源 義経  
獅子前立兜



佐々木盛綱  
大円山黒塗筋兜



島津忠久  
大円山星兜



大塔宮護良親王  
三鍬型兜



細川頼有  
菊金物兜



明智光春  
椎実に兎耳の兜



藤堂高虎  
後勝山筋兜



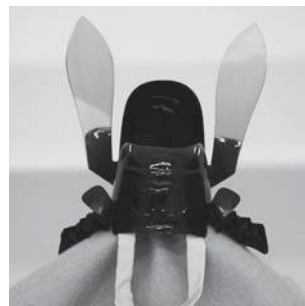
伊達政宗  
八日月兜



小堀遠州  
椎実に蛇の目前立兜



徳川家綱  
長烏帽子兜



脇坂安元  
唐冠の兜 纓の脇立



前田吉徳  
梅鉢に繰半月兜

加藤一胄(本名・清)は明治38年(1905)に飾甲冑師初代加藤秀山の三男として生まれました。父に師事して飾甲冑製作技術を習得すると、昭和7、8年(1932、33)ころ、自作の兜を出品するにあたって作号を「一胄」としました。戦中戦後にかけて、全国各地の古甲冑を調査研究し、国宝や文化財に指定されている武具・甲冑の模写修理に功績を残しました。昭和29年(1954)に銀座松屋主催の「近古名冑百選頒布会」で「極小豆兜」が好評を博してから、昭和30年代にかけて、百貨店主催の頒布会が度々開催されました。(日本人形玩具学会誌『人形玩具研究 かたち・あそび』第17号を参考)

この度、当館に寄贈された12頭の「極小豆兜」は、名古屋松坂屋の頒布会で購入したものと伺っております。5月の節句にあわせて、これらの兜を当館受付脇の展示ケースに飾ることになりました。ぜひ足をお運びください。

◆展示期間  
4月27日(土)～6月16日(日)

(学芸担当 斎藤信行) 一胄の落款



平成24年7月末に蔵造り資料館の北側「添屋」をリニューアルして、「まちなみ散歩ステーションぷらっと(以下、ぷらっととする)」を開設したことを以前お伝えしましたが、おかげさまで、たくさんの方にご利用いただいております。

添屋には、平成23年度末まで(社)小江戸川越観光協会の観光案内所が置かれていました。跡地の利用に際して、ここは蔵造りの町並みの中央であり、川越観光の中心地でもあることから、単に蔵造り資料館のガイドダンスでなく、川越を来訪されたみなさんへの情報発信の場として活用することになりました。そこで当館職員だけでなく、市役所の広報室・観光課・都市景観課・文化財保護課から職員を募り、「添屋会議」を設置しました。

会議は平成24年5月から7月にかけて計3回開催し、情報発信の方法としてカード形式の印刷物を配布することや、展示資料等の設置などを決めました。また、施設の名称は、来訪者に親しみやすく、覚えやすく、何よりここが情報発信の場であることが表現されるものでなければなりません。キーワードとしては、「蔵造り・町並み」、「散策・散歩」、「基地・駅」などが挙がりましたが、これだけでは語感が硬いので、愛称名も併記することにしました。紆余曲折の結果、ようやく**ぷらっと**に決まりました。「ぷらっと立ち寄る」「ぷらっと出かける」という気さくな感じに加え、英語の「plat」には「地図」の意味もあり、まさ



蔵造り資料館と「ぷらっと」

にこの施設に相応しい愛称です。また、「プラットホーム」の語から駅に繋がるイメージもあり、施設名を「まちなみ散歩ステーション」としました。

さて、**ぷらっと**では**ぷらっと**カードを配布しています。カードの内容については、各課で原案を作成し、その内容から3種類のカードとしました。蔵造りの町並みからの散策モデルコースを提案する**ぷらっと**散歩カード、蔵造りの町並みに関するクイズを提示した**ぷらっと**探検カード、周辺の施設に関する情報を提示した**ぷらっと**紹介カードです。それぞれ現在3パターンを用意しており、計9枚のカードを配布しています。このうち、「散歩カード」の配布数が多く、「これからどこへ行こう?」というみなさんのお持ちになっていると思われ、**ぷらっと**の設置目的が果たされていると自負しています。今後は、「散歩カード」を

中心に種類を増やすことや近年増加している外国人来訪者のための多国語のカードの作成なども進めていきたいと考えています。

**ぷらっと**では、はじめて川越にいらっしゃった方はもちろん、何度も川越にいらっしゃった「川越通」の方にも新たな発見ができるよう、魅力あるカードや展示資料を増やしていきたいと思っております。ぜひ、お立ち寄りください。

(教育普及担当 天ヶ嶋岳)

ぷらっと散歩カード1

**旧川越城下町めぐり (Aコース)**

① **【時の鐘】**  
市指定文化財。約400年前から城下町に時を告げてきた、川越のシンボルです。

② **【駒の手に曲がる道】**  
外敵が真っ直ぐに攻めてこれられないように、直角に道を曲げています。

③ **【川越キリスト教会】**  
武家屋敷で、外敵が真っ直ぐに攻めてこれられない姿をとどめる貴重な洋館です。

④ **【永島家住宅】** ※毎月第3土曜日に公開  
市指定文化財。川越に現存する唯一の武家屋敷です。

⑤ **【七曲の道】**  
外敵が真っ直ぐに攻めてこれられないように、幾重にも道を曲げています。

⑥ **【善多院】**  
徳川家康の信望篤い天海僧正の下で栄えました。重要文化財の建物が幾つも残されています。

⑦ **【日枝神社】**  
本殿が重要文化財に指定されています。

<Aコース> 旧川越城下町めぐり  
じっくり見学プラン(施設見学あり):約1時間30分  
お気配散策プラン(施設見学なし):約30-50分

ぷらっと散歩カード1

第38回企画展

「新河岸川舟運と川越五河岸のにぎわい」

会期：3月23日(土)～5月12日(日)

新河岸川の舟運は、寛永15年(1638)の火事で焼失した仙波東照宮の再建資材を運ぶために開設されました。川越と江戸を結ぶ重要な物資輸送路として整備され、川越周辺には扇河岸・上新河岸・下新河岸・牛子河岸・寺尾河岸の5つの河岸場が開かれました。この企画展では、江戸時代から明治時代にかけて繁栄した新河岸川の舟運と河岸場の動向を中心に展示します。



「新河岸川早船改正広告(部分)」  
遠藤房雄氏蔵

歴史講座

◆「古文書でたどる  
新河岸川舟運」

4月10・17・24日(水)

申込：4月2日(火)より

野外博物館教室

◆「新河岸川河岸場探訪」

4月20日(土)

5月11日(土)

申込：往復はがきにて  
4月13日(土)必着

講演会

◆「江戸時代における新河岸川舟運について」

4月14日(日) 阿部裕樹氏

◆「新河岸川舟運の川船」

4月21日(日) 高木文夫氏

申込：4月3日(水)より

利用の御案内

◆入館料

区分	博物館	川越城 本丸御殿	川越市 蔵造り 資料館	共通入館(観覧券)			
				●博物館 ●美術館	●博物館 ●本丸御殿 ●蔵造り 資料館	●博物館 ●本丸御殿 ●蔵造り 資料館 ●美術館	●博物館 ●本丸御殿 ●蔵造り 資料館 ●美術館 ●まつり 会館
一般	200円 (160円)	100円 (80円)	100円 (80円)	300円	300円	450円	650円
大学生 高校生	100円 (80円)	50円 (40円)	50円 (40円)	150円	150円	220円	450円

※( )内料金は、団体[20名以上、1名につき]の場合

交通案内

東武東上線・JR川越線 川越駅より  
または西武新宿線 本川越駅より、  
・東武バスにて「蔵のまち経由」乗車札の辻バス  
下車徒歩8分、または「小江戸名所めぐり」  
乗車博物館前バス停下車徒歩0分  
・イーグルバスにて「小江戸巡回バス」乗車博物  
館・美術館前バス停下車徒歩0分  
※御来館の際は、なるべく電車、バスを御利用く  
ださい。



◆開館時間 午前9時から午後5時まで(ただし入館は午後4時30分まで)

◆休館日 月曜日(休日の場合は翌日の火曜日)  
第4金曜日(休日を除く)年末年始(12月28日～1月4日)  
館内消毒(6月下旬) 特別整理期間(12月下旬)

\*開館時間・休館日は、博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館とも原則として同じ  
(館内消毒・特別整理期間は博物館のみ休館、蔵造り資料館は1月2日から開館)

平成25年	4月	平成25年	5月	平成25年	6月
日	1	日	1	日	1
月	2	月	2	月	2
火	3	火	3	火	3
水	4	水	4	水	4
木	5	木	5	木	5
金	6	金	6	金	6
土	7	土	7	土	7
	8		8		8
	9		9		9
	10		10		10
	11		11		11
	12		12		12
	13		13		13
	14		14		14
	15		15		15
	16		16		16
	17		17		17
	18		18		18
	19		19		19
	20		20		20
	21		21		21
	22		22		22
	23		23		23
	24		24		24
	25		25		25
	26		26		26
	27		27		27
	28		28		28
	29		29		29
	30		30		30
			31		31

●印は、3館休館(博物館、蔵造り資料館、本丸御殿)  
●印は、1館休館(博物館)

博物館の最新情報をパソコン又は携帯電話へ配信します

メール配信を希望される方は、川越市ホームページのオンライン「メール配信サービス」から「博物館メール配信」の登録を行ってください。携帯電話では、右のQRコードから登録の手続きができます。随時最新の情報等を配信します。  
※登録料および情報提供料は無料ですが、インターネット接続やメールの受信などにかかる費用は利用者の負担となります。



発行日 平成25年3月28日

発行 川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1 TEL 049-222-5399 FAX 049-222-5396

Eメール hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp

ホームページ http://museum.city.kawagoe.saitama.jp/